

平成26年第2回川本町議会定例会会議録
(第2日目) 平成26年 6月10日 午前9時30分開議

議長

傍聴者の皆様、おはようございます。6月定例会の傍聴にお出掛けをいただきまして、ありがとうございます。

皆様にお知らせしておきますが、傍聴者の皆様の『ご意見』をお伺いし、より良い議会運営を目指しているところであります。

そのために『傍聴意見書箱』を傍聴席入口に設置しておりますので、感じられましたご意見について、住所・氏名を記入と言え、なかなかお出しになりにくいと思いますので、それは結構でございますので、ご協力をいただきますよう宜しくお願いを致します。

午前9時30分より開会を致しますので暫くお待ち下さい。

々

おはようございます。

定刻となりましたので、ただいまより本会議を開催致します。

本日も、皆様方には大変お忙しいところ続いてご出席をいただき、誠にありがとうございました。

ただいまの出席議員数は8名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立致しました。

々

それではただちに、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配布しているとおりでございます。

々

日程第1「一般質問」を行います。

あらかじめ、申し上げておきますが、質問者は通告されました質問の全部につきまして、最初、壇上で質問をしていただき、再質問以降は質問席にてお願い致します。

そして答弁者は、議長において指定した項目についてのみ、登壇のうえ答弁をしていただきます。

更に、2回目以降の再答弁は自席において、お願い致します。

々

それでは、通告順に従いまして、順次質問を許します。

々

はじめに、石川議員の一般質問を行います。2番石川議員。

2番
石川議員

皆様、おはようございます。今年も梅雨に入りました。しかし何故かです、肌寒い日が続いております。私が言うまでもありませんが、この梅雨の時期、とかく体調を崩しやすくなりますので体調管理には充分ご注意をいただきたいというふうに思います。

2番 石川議員	<p>それでは通告書に従いまして、一般質問を致します。</p> <p>質問の要旨、本町の観光振興について問うものでございます。</p> <p>1 項目め、観光振興に対する本町の考え、また本町独自の近年の取り組み状況、及びその効果について問うものでございます。</p> <p>2 項目め、広域組織である三江線活性化協議会や石見観光振興協議会による、今年度の主な取り組み等、その内容を問うものでございます。また、これらの動きと連携して町内の既存の施設を有効利用することにより、更なる観光客の増加に繋がる可能性はないものか尋ねるものでございます。</p> <p>以上、よろしくお願い申し上げます。</p>
議 長	<p>それでは、石川議員の質問の「本町の観光振興について問う」に対する答弁をお願い致します。番外谷川産業振興課長。</p>
番外谷川産 業振興課長	<p>おはようございます。それでは2番議員石川議員の「本町の観光振興について問う」のうち、1項目め、観光振興に対する本町の考え、本町独自の近年の取組状況とその効果について、お答え申し上げます。</p> <p>本町の考える観光振興とは、既存の地域資源を活用しながら、新しい観光資源を開発することで、地域の魅力を地域経済・地域活性化に結びつけようとするものであります。この考えの基、施策としては観光振興を通じた、地域経済の活性化や地域活力の活性化を推進することを目的にしたものであります。地域経済の活性化と観光振興の関係につきましては、地域経済が潤うための観光産業の振興や観光関連産業の振興を具現化していくことで、目指していくものであると考えております。</p> <p>また、地域活力の活性化と観光振興の関係につきましては、観光が本来持っている機能として、地域の魅力を活用して地域外から人や物が対流することにより、地域に活力を生み出そうとするものであると考えております。</p> <p>そこで、観光振興を推進するために、平成25年度から、観光振興の推進母体となる観光協会に、専任の職員を置くことで体制を強化し、さらに商工会と密接に連携するために、事務局を商工会内に移設して取組始めたところであります。今回の、こういった取組の成果は少し時間を要するものではありませんが、早速に観光協会と商工会とが連携し、歴史的な地域資源等の掘り起こしを初めとした、観光振興対策に乗り出しており、今後の進展に期待しているところです。以上です。</p>
議 長	<p>再質問は、ございますか。はい、2番石川議員。</p>
2番 石川議員	<p>本町が将来に亘り発展可能な町であり続けるためには、町長の公約である農業の6次産業化、また定住対策等々に加え、地域外からの誘客を推進する観光振興が大変重要であると考えております。そこで、直近3カ年の本町への観光入り込み客数の主な施設ごとの推移及びその変動の主な要因を、どう</p>

2番

石川議員
議長

分析し、どのように捉えているのかについて、先ずお伺いします。

番外谷川産業振興課長。

番外谷川産
業振興課長

施設ごとと言いますか、新聞報道等でしております川本町の観光客の入り込み総数というのは、主に3施設を対象にした推移を纏めて出しているものが公表されております。笹遊里、それから弥山荘、それから音戯館、この3件につきまして合計したものを出しております。23年度で3施設の合計が約37,000人。それから24年度が34,000人。それから25年度が41,000人。24年度につきましては、弥山荘、それから音戯館につきまして途中でリニューアルのために少し2、3ヶ月休館したりしておりますので、若干数字は落ち込んできておりますが、全体として数字としては伸びてきているという事で新しい指定管理者になったり、それからいろいろ変更されて管理者のきめ細かい対応、そういった事でリピーターが可成り増えてきているのではないかというふうには分析しております。

議長

再質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番

石川議員

今、課長の答弁にもありましたけれども、山陰中央新報ですか、4月20日付けの日曜日の新聞で、川本町の12年度と13年度を比較して21.5%大きく伸びたというふうに良い意味での報道がされております。ちょっと閉館等もあった訳ですけども、宣伝にはけっこうなったんじゃないかというふうに感じております。そこで、先ほど課長の最初の答弁にありましたけれども、商工会事務所内にですね、移管後の観光協会が力を注いでいる取り組みと、その効果についてちょっと問うものでございます。

議長

番外谷川産業振興課長。

番外谷川産
業振興課長

先ほど述べましたとおり平成25年度から観光協会の事務局を商工会に移し、それから専任職員を1名付けてやっております。昨年7月から活動しております、ほぼ毎日と言いますか今年の3月末迄の日数を計算しますと3日に1度は必ず駅に行って昼の上り列車の1時間40分ですか、ほぼ2時間近くの待ち時間のところで乗客の皆さんにいろいろアンケートを取ったりしております。それでそのアンケートのうち結果として47都道府県が日本には有りますけれども、その内の35都道府県の方が実際に駅に降りられたという事で、日本全国から川本の駅を利用しておられるという事が、ひとつは実態として掴めてきたというのがあります。それからこの案内に付きましては、街歩きの地図ですとか、それから今、商工会等でも取り組んでおります川本町の歴史について来られた方に説明をしてあげたり、待ち時間の食時間、或いは食事のタイム・場所ですとかを情報提供したりしながら、川本町のひ

番外谷川産業振興課長 ひとつの顔としてイメージアップには可成り繋がった活躍をしていただいているとは思っております。

議 長 再質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番石川議員 今の課長の答弁にありましたけれども、三江線ともうひとつですね、小笠原関連の調査も可成りきめ細かくやっておられるというふうに聞いております。聞くところによりますと13世紀から16世紀まで、この地を治めた小笠原氏につきまして本当にきめ細かく勉強をされております。それでこれを観光協会だけで、こういう事をやっていって、やはり教育委員会文化振興財団ですか文化振興の方が関わりが無いというのもどうかと思うのですが、その辺の教育委員会としての立場ですね、立ち位置をちょっとお願い致します。

議 長 番外杉本教育課長。

番外杉本教育課長 小笠原関連の歴史的なところのご質問でございますが、教育委員会と致しましては、観光という観点はもとより、その歴史的な資源の掘り起こしという部分については取り組む必要があるというふうに思っております。

先般、歴史研究会の総会等がありましたけれども、その中でもこの観光協会の取り組みというものは取り上げられているものでございます。こういったところは歴史研究会とタイアップして取り組んでいきたいというふうに思っております。

議 長 再質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番石川議員 先ほども申し上げましたけれども、可成り細かく歴史の事実を押さえてやっておられますので、ひとつ有効に活用出来るようにお考えいただきたいと思えます。

それから3月定例会における町長施政方針の中に、町の木である「もみじや桜」等を計画的に植栽するなどして、鮮やかな景観を想像して観光にも繋げていく取り組みを検討したいというふうにありましたが、その後の検討状況につきまして尋ねるものであります。

議 長 はい、番外谷川産業振興課長。

番外谷川産業振興課長 これは今年度、町長の強い思いがありまして、景観をひとつ観光の中に取り入れようという事で始まっております。現在のところですね、観光協会が主体となりまして県の補助事業「みーもの森づくり事業」というのがございます。これに申請をして一部、仙岩寺の旧赤道あかみちの部分がありますので、そこから辺に山桜等を植えたりしながら、少し景観作りにいろいろ試みをしてみよ

番外谷川産業振興課長
議 長

うという事で申請等を出しております。
再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

新たな景観の創造、または観光客増に向けた植栽計画ですか、これは県からの採択の可能性、更に仮にですね不採択になった場合の対応、今後の考えについてどういうふうに考えておられますか。

議 長

番外谷川産業振興課長。

番外谷川産業振興課長

県の採択の関係ではありますけれど、昨日、決定をいただきました。それで今回は、たまたま助成金が付いた訳ですけれども、これを単年度で終わるという事には多分ならないと思います。次年度以降につきましても助成金等有れば、出来るだけそういうものを活用しながらやりたいと思いますけど、一度始まったものは或る程度継続したいという思いもありますので、出来るだけ少しずつでも取り組んでいきたいというふうには考えております。

議 長

再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

今、課長の方から継続して取り組んでいくという答えがございましたけれども、実は北海道の最南端に松前町という人口8,748名ですか、平成22年度の国勢調査ですけれども、その町がありますけれども、ここに松前城というのがございまして、どうもそこを桜の木で公園化しているという事を聞きました。いろいろ調べてみますと最初はおそらく観光協会なり役場の方の後押しで桜守さくらもりの人が一人いらっしゃいまして、その人がこつこつと10年ぐらい掛けて100本、200本の桜を植えておられたそうです。それを見ていた小学校の先生がいらっしゃいまして、その方が小学校の教員でありながら接ぎ木の勉強をしたりですね、また交配の勉強をしたり、また実際に土壌改良とか、そういう勉強をされまして退職を機にその桜守さんの後を継がれたそうです。それで日本には300種類の細工らの品種があるそうですが、その松前公園にはその内の250種類、一万本の桜が植わっているそうです。とかくこういう事業につきましては、補助金が有るからやるとかですね、何かそういうものが有るから飛びつくという事になりがちでございますけれども、そういう桜守さんのような学校の先生のようなそうい人が出てくるこないは別にしてですね、やはり地域全体でそれに取り組むと、そういう仕掛けをしていくという事が必要だろうと思います。

それでは、ひとつ提案ですけれども、例えば「日向集落の森」とか、「西自治会ゾーン」とか、また「東京に出られている何々さんの桜」とか、そういう住民とか地域自治会、また川本に本拠を置く会社とかに呼び掛けて本当に単年度でやったやっただで終わるような事業にならないように、本当にやる

2番
石川議員

のでしたら、やはり理想を求めて出来るか出来ないかは別にしてですね、そういう大きなビジョンを掲げて取り組んでいただきたいという事をお願いをしておきます。

それから次に移りますけれども「弥山荘」のリニューアル効果は何よりというふうに思っておりますけれども、今年度から変更された指定管理先はですね、他の施設においても同様な施設運営のノウハウを有している事から、新たな立ち上がりとなった4月、5月の実績及び運営上の特徴等について尋ねるものであります。

議 長

番外谷川産業振興課長。

番外谷川産業振興課長

本年度の4月から指定管理者が変わりました。ちょっと名前は長いんですが「シダックス大新東ヒューマンサービス」という会社が変わっております。これはシダックスを母体としたグループ会社の一部でございます。ネットワークとしましてはカラオケ等、或いは多角経営を可成りされております。大きなネットワークを持っておられます。今回変わられて、その最初の思いとすれば、先ず今までの経営のあり方というのは取り敢えず踏襲したいというのがひとつであります。それで急に物事全てを替えてしまうと、今まで他の経験からすると可成り客離れが起きたといった経緯もあるようでして、先ず踏襲したい。それで徐々に替えていきたいという事です。それで4月、5月につきましては、ほぼ平年並みで今のところは推移しております、というふうに聞いております。それとイベント等につきましても、ネットワークを使って、こういうイベントはここでやっているよという事は情報提供はしているというふうには聞いております。今後は、そういったネットワークと、それからグループとして持っておられるいろんなノウハウをどんどん注入していただいて、また新たな方向で展開していただければというふうには考えてはおります。

議 長

再質問はございますか。はい、2番石川議員。

2番
石川議員

同じ民間ノウハウの有効利用という観点から「音戯館」の直近の実績及びこれまた運営上の特徴ですね、また音戯館が今どういうふうに動いているのかお聞かせいただきたいと思えます。

議 長

番外杉本教育課長。

番外杉本教育課長

かわもと音戯館に関するご質問でございますが、今、手元の方には平成23年と平成25年の実績データを持っております。平成23年というのは、川本町が単独で直営をしておった最後の年でございます。それから24年以降、指定管理者に移行しているというところでございます。平成23年のこ

番外杉本教
育課長

れを個別に申し上げますと、レストランの利用者数が1,743人、平成25年には5,771人になっております。平成25年この年にはご利用者の方に大変ご迷惑を掛けましたが6月、7月にちょっと運休するという事がありましたけれども、それにしても対23年度比で見ますと約3.3倍の方にお越しいただいているというところでございます。あとホテルでございますが、平成23年には1,311人の方がご利用いただいております。これが平成25年には3,397人の方にご利用いただいたと。対23年比で見ますと約2.6倍の方にご利用いただいている。これを全体で見ますと総利用者数3,054人に対して平成25年には11,711人の方。23年度比で3.8倍の方が来館いただいているという状況でございます。指定管理者に変わって以降ですね、様々な取り組みをいただいているというところでございます。特にこれまでなかなか行政サイドで出来なかったメディア等を通していろいろな宣伝をしておられますし、レストランについては毎月いろいろなイベントをしておられる。それからホテル等々についてもですね、ライダーズハウスというようなバイクであるとか自転車であるとか、そういった方が安価に泊まれるような部屋の新設であるとか、そういった新しい取り組みをいただいているというところでございます。

議 長

再質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番
石川議員

ちょっとここで副町長にお伺いしますけれども、「弥山荘」、「音戯館」とも施設運営が上手く機能しているという事でございますが、これを違う側面から見ると職員ではなかなかこうはいかないという、そういう事も見えてくるんですね。職員教育、日々の業務を通して人材育成をどのように考えていらっしゃるか、お聞かせいただきたいと思います。

議 長

番外野坂副町長。

番外
野坂副町長

ノウハウが有ります民間に委ねた方がパフォーマンスが高いと、こういうふうに思われる分野に付きましては、今後も民間委託を積極的に流していきたいというふうに考えております。一方でご指摘の有りますように直接担わなければならない分野、これに関わりますその組織力の向上、これは特に私のように外部から参りました者の大きな役割だというふうに考えております。これに向けましては先ず外部間への積極的な研修を促しております。それと共に日々のOJT(On the Job Training)これを重視致し致しております。時には、これは場合によりましてはでありますけれども、とある課題を抱えております課題を現状と課題、そして対応の方向性ですね、こういったものを私自ら率先して示してみようといったような事などをやるなどしてですね、これを或る意味そういった職員が育ってくればという動きもしております。また、所謂、私ども地方公務員としての仕事術、身につけて欲

番外
野坂副町長 しい仕事術、こういったテーマがあればこれを掲げまして内部研修といったような講師に立つといったような事もやっております。今後もこういった特に人が作り上げていく仕事を組織力として高めていくために、本町の将来を担います若手職員が、これはおそらく関係機関を巻き込んで共鳴を呼び込みながら組織課題に対応していける、これは企画力であったりコーディネート力であったりマネジメント力、こういったものを身につけていくよう人材育成に向けて重力して参ります。

議 長 再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員 ありがとうございます。本町の観光振興に向けた拠点となる中核施設は何れとも意欲的に取り組んでいただけているという事から、今後は景観面を意識した新たな取り組みを含めた観光協会との連携のもと、それぞれが相乗効果と呼び込むような観光客の増加に繋がる取り組みが一層進むことを期待致しまして、私の1項目めの質問を終了致します。

議 長 以上で、「本町の観光振興について問う」の質問を終了します。
これもちまして、石川議員の一般質問を・・・
すみません。続いて石川議員の2項目めの質問に対する答弁をお願い致します。はい、番外谷川産業振興課長。

番外谷川産
業振興課長 それでは2項目め「三江線活性化協議会や石見観光振興協議会による今年度の主要な取組内容」の前段部分でございます。
三江線活性化協議会は、三江線沿線の6市町で構成される協議会であります。26年度は三江線の運転再開を記念した事業や三江線活用のための、回数券助成、10人以上で三江線を利用したイベント等を行った団体への補助、沿線の景観、文化・食などと連携した事業、三江線の知名度向上とイメージアップ等を予定しております。
また、石見観光振興協議会は、石見部の市町と観光協会、商工会により設立されている協議会であります。事務局を島根県の西部県民センター商工労政事務所に置いているものであります。平成26年度の主な事業として3つが計画されています。
1つ目は、石見神楽振興事業として、石見神楽を活用した誘客促進活動があります。石見神楽の週末公演支援や出張公演への助成、石見神楽情報の発信、石見神楽常設公演化に向けたモデル事業の実施等であります。
2つ目は、石見の魅力発信事業として、石見地方の総合観光パンフレット「石見たび」の作成。テレビやウェブなど映像媒体並びに雑誌などを使った情報発信のためのプロモート事業、着地型観光等新たな観光商品開発の支援事業等であります。
3つ目は、石見地域の観光魅力づくり事業として、石見地域の食の魅力向

番外谷川産
業振興課長

上のための、ご当地めしとしての神楽めしの認知度向上対策。石見ドライブマップや冬季の誘客促進助成事業等を行っております。

続きまして後段部分であります、三江線活性化協議会等と町内の既存施設を連携し有効活用することで、観光客の増加に繋がる可能性について、であります。この分につきましては、三江線活性化協議会等により実施される、石見地域や三江線を活用した観光振興と連携した、町の観光振興の推進は有効であると考えております。例えば、石見地域の食の魅力向上対策として、ご当地めしとしての神楽めしというのが有りますが、これらにも川本町の食材を使ったものを提供し、川本の魅力アップに繋がっていただければと思っております。

また、石見神楽の出張上演助成等に付いても、石見神楽の持つ集客力等を活用すると共に助成制度を活用してもらえるようにアピールして行くことも必要であると考えております。

また、江の川と三江線といった沿線の景観の魅力アップについても連携して取り組んでいけるものと考えております。以上です。

議 長

再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員

先ほどの答弁にもありましたけれども、観光の振興に向けては本町独自の取り組みに加えて、広域組織と連携して取り組む事も最も重要であるというふうに考えております。そこで本町も構成員として加わっている石見観光振興協議会及び三江線活性化協議会の今年度の主な取り組み内容について、特に昨年夏の豪雨の影響により、現在、不通となっている三江線の全面復旧を待ち望む町民の思いは強いものがある訳ですが、そのところも含めて町長の思いをお聞きするものです。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

三江線につきましては、ご案内のとおりこの度は県そしてJRの多大なるご尽力に依りまして、全線再開という方向に向かっておりますことは本当に嬉しい事で、また感謝しているところでございます。これからは、より一層何としてもこの利用促進していくというところに努力していかなければなりません。様々な課題はございますが、そのひとつとして沿線6市町が連携を取る中で観光に力をいれなければならないと考えております。この今でも三江線の車窓から見るロケーションというものは、本当に素晴らしいものでございますが、更にこの江津から三次までの108キロの区間を、例えば全て桜並木にするとか他にはない日本一のロケーションを意識して、そういうものを想像する、そしてそうした中でサイクリングをすとか、また江川を使った企画を考えて全国に発信していきたいという思いを持っております。またそうした中で本町でございますが、先ほどから出ておりますが川本町の木

番外
三宅町長

でありま「もみじ」或いは「桜」、そして川本の花であります「つつじ」を町民参加の共同の作業で計画的に、これからこの植栽して一段と鮮やかな景観を作り出す。そしてこれも先ほどありましたが今研究が進んでおります、この戦国時代の山城にストーリー性を持たせて、この田んぼツアー或いは希少植物の見学ツアー、また、まだまだ町内で眠っておりますこの宝を掘り起こして、そうしたところに光を当てて、また発信能力も付けてこういうところを商工会・観光協会・NPOと連携を取りながら、この観光に繋げていきたいというふうに考えております。こうした取り組みがあつてこそ、この町が活性化して三江線の存続にも繋がっていくものというふうに考えております。

議 長

再質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番
石川議員

ありがとうございます。ちょっと細かい事をお聞きしますが主として観光客向けに平成25年度JR川本駅へコインロッカーの設置をされたというふうにありますけれども、その利用状況また駅舎周辺の観光サインの設置計画があるのか、及びこれらに続くような今年度の取り組み内容を伺います。

議 長

番外谷川産業振興課長。

番外谷川産
業振興課長

川本駅にロッカー設置されております。原則無料ではありますが、いったんお金を入れて帰る時にまた返ってくるという事でありまして。ただロッカーその物にはカウンター等を設置しておりませんので具体的な数字というのは把握出来ておりません。ただ観光協会の職員が昼に行つて観光案内等をする時にロッカーが有りますよという案内はしております。その中で聞いた話ですが、だいたい高齢者であったり大きな荷物を持っておられる方はだいたい1割程度はロッカーを使われると。それでそれ以外の方は結構ですというふうに言われて利用はそれなりに必要に応じて有るのかなという事は聞いております。あとサイン事業につきましては25年度に弥山荘、それから施設への誘導案内の看板を設置しております。本年度は駅前に看板を2基、それから道の駅と笹遊里それから音戯館、弥山荘へ観光案内のパネルを設置する予定にしております。

議 長

再質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番
石川議員

ありがとうございます。鉄道ファンを中心とした来客に対しましては、本町の誇れる地域資源を一層魅力化して情報発信していく必要があるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。それから石見観光振興協議会においては石見神楽の振興に力を注いでいるという事を言われてお

2番
石川議員 おりますけれども、主として夏の時期の週末を中心に定期公演化する取り組みが広がってきておりますが、残念ながらですね本町での取り組みには至っておりません。この事につきまして背景も含めて課長の見解をお伺い致します。

議 長 番外谷川産業振興課長。

番外谷川産業振興課長 今。県内で夏の時期と、それから冬の時期に分かれて夏季の週末公演として7月から9月、それから冬季が12月から2月という事で石見の夜神楽週末という公演をやっております。これは石見観光振興協議会が有る程度資金を出してやっているという事でありまして、こういった部分につきましては、非常に神楽というのが非常に集客力が大きいという事で是非取り組みが出来ればとは思っておりますが、ご指摘のとおり現在未だ川本町としては取り組んでおりません。25年度に石見観光振興協議会の方でモデル事業として石見部3箇所、大田市の大森、それから浜田の三宮神社、それから益田の駅ビルのところで定期公演を少しモデル化してやってみようという試みが予定されております。こういったところで必要な収支、或いは集客の方法ですとか多分検討されると思いますので、川本町としてもそういったものを受けて川本町内で出来る範囲のものは少し取り組みが出来ればというふうには考えております。

議 長 質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番
石川議員 副町長にお伺い致しますけれども、JR石見川本駅舎の一定のゾーンを、この定期公演化を意識したミニ神楽殿として利用する方法が考えられないものかと、いう提案をしたいわけですがけれども、副町長のお考えをお聞かせ下さい。

議 長 番外野坂副町長。

番外野坂副町長 ご承知のとおり本町は有史以来、交通の要所という位置にございました。近年その中心地が議員が仰いますとおりJR石見川本駅でございます。その石見川本駅、そもそも駅は人が集い交流する場所であります。その意味からも本町が内外に誇ります、この優れた伝統芸能であります石見神楽をキーワードに集客するというイメージのご提案だと思っております。これは新たな集い交流が生まれるものというふうと考えております。

議 長 再質問ございますか。はい、2番石川議員。

2番
石川議員 更にはですね、ここを情報発信拠点として「しまちゅうステーション」、今ちょっと休んでおりますけれどもね、しまちゅうステーションとも連携す

2番
石川議員 　　る事により大きな課題となっております弓市商店街の活性化にも繋がるもの
と考える訳ですけれども、副町長のお考えをお聞かせ下さい。

議　長 　　番外野坂副町長。

番外
野坂副町長 　　J R石見川本駅前の「しまちゅうステーション」につきましては、残念な
がら現在休止している訳でございます。そうした中で、その近隣で人が集い
交流する仕掛け作りが展開されれば、また新たな可能性も出てまいるとい
うふうに考えております。現実的には議員ご提案の仮に定期公演化を模索する
と致しましても場所の問題、町内全体を見渡した時にJ R石見川本駅なのか
或いはもっと適地があるのではないかと、或いはそもそもJ R石見川本駅をイ
メージする場合ですと実際のその施設の設置者でありますJ R西日本のご意
向、もちろんこれが先ずお伺いする必要があるかというふうに思います。
また、そもそも舞手であります神楽団の方々の意向、近年いろんな場面で神
楽の機会が増えております。その中で4つあります本町の神楽団の方々も様
々な場面に出掛けていらっしゃいます。そういった方々のお考え、そうい
ったものも尋ねる必要があるかというふうに思っております。もちろん商工会
や観光協会あたりとも意見交換を重ねながら、これはもう課題となっております
本町の中心市街地の活性化に向けて、それを見据えて検討する、それを見
据えてそういった意見交換を重ねてみるべきというふうに考えております。

議　長 　　再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員 　　是非とも積極的な検討をお願いしたいというふうに思います。最後でござ
います、三江線活性化協議会によりまして石見神楽のラッピング列車は走
らせる計画があるという事もちょっと聞いております。山陰本線に続きまし
て三江線とくれば連携して本町の地域公共交通へも新たなラッピングが出来
ないものか、との提案をしておきたいというふうに思います。本町の誇れる
地域資源であります先ほどから度々出ております石見神楽、それから江川太
鼓、こういうものをモチーフにラッピングする事によりまして、町民の地域
への愛着と誇りを歓喜しながら内外への情報発信ができるものとする訳で
すけれども、副町長の見解をお伺いします。

議　長 　　番外野坂副町長。

番外
野坂副町長 　　J R山陰本線につきましては特急列車に石見神楽のラッピング列車が近年
運行されております。議員ご指摘がありましたように三江線活性化協議会でも、
いつラッピングかという計画が動いております。そうした中で本町の地域
公共交通バスに向けてラッピング化をというご提案でございますが、町長

番外
野坂副町長

も先ほど申しましたがJR川本駅にラッピング化された列車が止まっているところへですね、本町のスクールバス、これも同じように石見神楽或いは江川太鼓もあろうかと思えます。そういったものがラッピングされたものが入ってくると、そういう姿を想像しますと非常に或る意味、絵になるのかなという気もしております。あわせて優れた伝統芸能を再度そういった姿を目の当たりにしながら確認しながら私どもが地域への愛着と誇りを再確認しながら過ごすという意味合いでも興味深い提案だというふうに考えます。

一方で先ほどの神楽殿の提案もそうでしたが、このラッピング化につきましても具体的にその費用と効果の検証、そういったところも町の財政の全般を考えますと検討すべきであるというふうには考えております。何れにしましても、そういった広域組織であります石見神楽振興協議会或いは三江線活性化協議会、こういった組織等のいろんな広域的な取り組みと連動して、本町の優れた伝統芸能、或いは地域資源、更には歴史資源、こういったものを内外に発信して外からの観光誘客を少しでも取り込んでいくような、そういった提案を検討し可能性のあるものについては実現していくと、そういった動きが今後、本町が持続ある町としてキラリと輝いていくために必要な取り組みであろうかというふうに考えております。

議 長

再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員

はい、ありがとうございます。しっかりお願いしたいと思います。何れに致しましても本町の観光振興には、まず歴史をしっかり学び研究を致しましてひとつの物語、先ほど町長も仰いましたけれども、ストーリーとなるような仕掛けを考えていただきたいというふうに思います。そのうえで個々の施設が単独の動きをするのではなく、連携して取り組む姿勢・仕組みを構築してもらいたいというふうに考えております。本町の山々と江の川を十分意識した取り組みが進むことを期待致しまして質問を終わらせていただきます。

議 長

以上で、「本町の観光振興について問う」の質問を終了します。

々

これもちまして、石川議員の一般質問を終了します。